

## 地域の拠点としての生協店舗

### 巻頭言

組合員のニーズを事業化し喜ばれること～移動店舗は生協の原点……阿部 慎二 1

### 争論 地域と暮らしを支える「店」とは？……2

01 低価格で食と暮らしを支える～BESTA店の挑戦……吉川 毅一 3

02 組合員の地域拠点をつくる～生活クラブ館徳丸の建設……加瀬 和美・小林 徹也 12

### 特集 地域の拠点としての生協店舗……21

01 新しい「店」のあり方をもとめて……杉本 貴志 22

02 食と医の協同による地域拠点作り

～生活協同組合おかやまコープと岡山医療生協の事例……加賀美 太記 30

03 シンガポールでの研修体験と、そのなかで感じたコープこうべの店舗事業との違い……山本 藍里 36

### くらしと協同をたずねて

集落が作った小さな生協～菅浜生活協同組合……岩橋 涼 44

### 書評

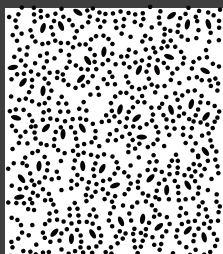
01 『東日本大震災後の協同組合と公益の課題』現代公益学会 編……上掛 利博 48

02 『格差社会と現代流通』大野哲明・佐々木保幸・番場博之 編著……日隈 美朱 52

投稿規程…… 54

バックナンバー／編集後記…… 55

小  
紋  
撰  
趣



### 表紙紋様「五三の桐の紋様」

五三の桐の紋様は、3本の直立する花序と3枚の葉より構成される紋様で、古くは、平安時代から用いられていた紋様です。日本原産と言われている、ゴマノハグサ科の桐の葉を図案化した総称で、桐花紋（とうかもん）とも呼ばれています。

古来より中国では、桐の木はすぐれた王者（聖王）が出た時にそれを祝福するために現れる霊鳥「鳳凰」が止まる木とされています。そこで、皇室は菊の紋章の別紋として、聖王出現にちなむ桐の紋章を用いてきました。また、成長が早い桐の木は、女の子が生まれると植えて、嫁ぐ時に切り出し、箆笥や長持ちを造るのに当てられてきました。

田内隆司／京小紋画像提供（田内設計事務所）